

こころの発達総合支援センター

幼児集団療育 気づきグループ

支援者テキスト

はじめに

近年、発達障害およびその周辺群の子どもたち（以下、総称して「発達障害」と呼びます）が決して稀ではないことがわかってきました。幼稚園・保育所や学校など子どもたちの集団生活の場では、どこのクラスにも発達障害あるいはその周辺群の子どもが複数いることに、多くの先生たちがすでに気づいています。このような子どもたちは、認知・情緒・行動・学習などに独特の個性を有するため、社会生活の様々な場面で不全感や疎外感を味わいます。多くの一般の子どもたちにとって楽しいこと、苦も無く参加できることが、発達障害の子どもたちにとって時に苦痛をもたらすのです。

発達障害は、愛情不足やしつけ不足が原因で生じるものではなく、生来性のものです。おそらく脳機能に生物学的な異常があると推測されていますが、A B型の血液型や左利きと同様に病気と考えるよりも少数派の種と考える方が合理的です。したがって、訓練や薬によってその特性をゼロにすることを目指すよりも、個性として社会生活に活用できるよう支援することが重要です。発達障害に関する研究の進歩に伴い、環境や接し方のちょっとした工夫で、これらの子どもたちの社会参加を大きく促進できることがわかっています。

今後、すべてのクラスに必ず存在する発達障害の子どもたちが充実した集団生活を送ることができるためには、発達障害の特性と支援に関する知識と技術がより広く浸透していくことが求められます。幼児期では、少しでも早い時期から子どもの発達特性に気づき、それに合わせた適切な環境と接し方の工夫を開始することが重要です。

このテキストは、発達障害の子どもたちに対する幼児期の集団プログラムの考え方と具体的な運営方法について解説したものです。子どもの特性を適切に評価し、支援プログラムを立案し、集団活動を計画する、その道筋を示しました。さらに、この時期の保護者に必要な支援をプログラム化して、子ども向けプログラムと並行して行う具体的な方法について示しました。乳幼児健診などで発達に気になる点がみられた子どもたちを集めて行う導入期の集団プログラムや、発達障害と診断された後に継続的に行われる専門的な集団療育を想定して書かれています。各自治体で同様のプログラムの実施を検討される場合の参考にしていただければ幸いです。また、一般の幼稚園・保育所の先生たちにとっても、発達障害の子どもたちに対する環境や接し方の工夫を考えるヒントが数多く含まれています。

このテキストが、幼児期の発達障害の子どもたちを支援する多くの人たちのお役に立つことを願っております。

平成 25 年 3 月 12 日

山梨県立こころの発達総合支援センター
本 田 秀 夫

目次

<u>グループ運営のねらいと概要</u>	<u>1</u>
<u>グループピングについて</u>	<u>2</u>
<u>グループ運営進行表</u>	<u>3</u>
<u>子どもプログラム</u>	<u>4</u>
<u>親グループプログラム</u>	<u>26</u>
<u>参考資料（記録用紙等）</u>	<u>56</u>

グループ運営のねらいと概要
 ―気づきグループ運営の目的および対象・考慮すること―

《事業の目的》

保護者の発達特性への気づきと子育て支援
 支援プログラムの開発

《対 象》

当センターに来所している幼児とその保護者でグループ活動に参加希望があり、参加目的を理解している親子

《プログラムのねらい》

- ・子どもが楽しい集団活動を体験しながら発達評価を行う
- ・保護者が子どもの発達特徴について気づきを得る
- ・保護者が子どもに合った対応方法についてともに考える
- ・保護者が子どもの成長の見通しがもてる

《プログラム》1 コース 7 回

	内 容
第一回目	集団プログラム（体験セッション）&親グループ
第二回目	親セミナー ―保護者のための学習会―
第三回目	集団プログラム（セッション1）&親グループ
第四回目	集団プログラム（セッション2）&親グループ
第五回目	集団プログラム（セッション3）&親グループ
第六回目	集団プログラム（セッション4）&親グループ
第七回目	振り返りの会

《1日のスケジュール》

	子ども	保護者
10:00～	朝の会	
10:10～10:40	集団プログラム1【構造化設定】 認知・社会性活動	
10:40～	お部屋移動	
10:50～11:00	集団プログラム2【半構造化設定】 全身を使った運動活動	
11:00～11:20	集団プログラム3【自由場面設定】 自由遊び	親グループミーティング

*親は集団プログラム1及び2に同席・見学する。親グループミーティングでは、親が気づいた子どもの様子を語り、理解を深める場としている。

グルーピングについて

集団プログラムを実施する際には、どのようなメンバー構成の集団で実施するかが効果に大きな影響を及ぼす。グループのメンバー決めが、運営の成否の大きな部分を占めるといっても過言ではない。

子どもの集団プログラムでは、同伴する親もグループ化して親向けのプログラムを行う。したがって、子ども本人たちのメンバー構成だけでなく、親のメンバー構成も配慮できるとよい。もちろん、両者が完璧にうまくいくことは難しいことが多いが、全く何も配慮せずにグループを構成するよりは、多少なりともメンバー構成の配慮がなされた集団の方が効果的である。

1. 子どもグループのメンバー構成について

対象を選ぶ時には、子どもの興味、理解水準、活動性、衝動性、対人緊張などを考慮する。興味と理解水準は、なるべく共通項が多い方がよい。活動性については、同質のタイプの子どもばかりよりも、多少異質な子どもが適度なバランス配分で構成されている方が、グループが活性化する。衝動性が高い子どもは、1グループにつき1名を目安とする。このタイプの子どもが複数いると、グループ全体の衝動性が高まり、トラブルが起きやすいからである。

子どもの特徴は事前に評価しておくべきであるが、事前に個別に会っている時と実際にグループに入った時とでは状態が全く異なる子どももいる。また、緊張しやすい子どもや過剰適応傾向がある子どもなどは、回を重ねるにつれて状態が変化する。したがって、定期的にグループ構成を見直すのが望ましい。

2. 親グループのメンバー構成について

グルーピングでは、子どもの特性だけでなく、親のパーソナリティや、不安の程度、子どもの特徴に対する理解の深まり方などの要件を考慮することも必要である。集団にすることによって、親のストレスが高まるなどの可能性がある場合は、積極的にグループ化しないほうがよい場合もある。ただし、気づき段階のグループに関しては、参加目的を理解していれば継続グループほどには慎重にならなくてもよいかもしれない。両親が共働きなどの理由で父母が交互に参加する場合、継続性は薄れるが、普段母親主体となりやすい相談に父が参加するきっかけとなり、さらに内容を引き継ぐために家庭で子どもについて話すことが増え、父母の考え方の調整に役立ったという事例もある。

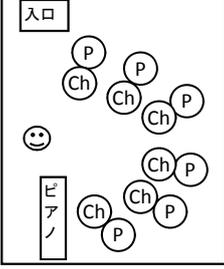
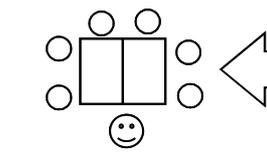
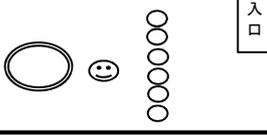
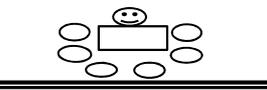
グループ運営進行表

時期	内 容	保護者	相談担当者	センタースタッフの役割	事業担当者
準備期間	<input type="checkbox"/> 相談 グループ対象者の選考 (※グループヒンクについて)	<input type="checkbox"/> グループ利用希望 <input type="checkbox"/> 参加目的の合意	<input type="checkbox"/> 子ども及び保護者のアセスメント ↓ <input type="checkbox"/> グループ対象の可能性の検討 ↓ <input type="checkbox"/> 保護者への説明 参加目的の合意	<input type="checkbox"/> 日程、スタッフ、会場の調整 <input type="checkbox"/> 事業企画 <input type="checkbox"/> 事業起案	<input type="checkbox"/> 日程、スタッフ、会場の調整 <input type="checkbox"/> 事業企画 <input type="checkbox"/> 事業起案
		事業前カンファレンス			<input type="checkbox"/> カンファレンスの日程調整 <input type="checkbox"/> カンファレンスの運営 <input type="checkbox"/> 用意する物品の確認
	参加までの準備	<input type="checkbox"/> 参加に向けた日程調整 <input type="checkbox"/> 申し込み用紙の記入	<input type="checkbox"/> しおりと申し込み用紙の送付 <input type="checkbox"/> 事例の課題、目標の整理 <input type="checkbox"/> ふりかえりシートの作成 <input type="checkbox"/> 可能なら事前にこどもの写真をとる <input type="checkbox"/> 参与観察と支援の工夫 <input type="checkbox"/> こどもの写真をとる	<input type="checkbox"/> 役割分担の調整、確認 <input type="checkbox"/> 教材等準備の進捗状況の確認 <input type="checkbox"/> 講師との連絡調整 <input type="checkbox"/> 保護者あてしおりの発送 <input type="checkbox"/> オリエンテーション資料の作成 <input type="checkbox"/> 申し込み用紙のとりまとめ <input type="checkbox"/> 『子どもの好きなこと』用紙の配布	<input type="checkbox"/> 役割分担の調整、確認 <input type="checkbox"/> 教材等準備の進捗状況の確認 <input type="checkbox"/> 講師との連絡調整 <input type="checkbox"/> 保護者あてしおりの発送 <input type="checkbox"/> オリエンテーション資料の作成 <input type="checkbox"/> 申し込み用紙のとりまとめ <input type="checkbox"/> 『子どもの好きなこと』用紙の配布
第一回目	集団プログラム (体験参加)	<input type="checkbox"/> 申し込み用紙の提出			
第二回目	親セミナー ～保護者のための学習会～	<input type="checkbox"/> (ホームワーク) 『子どもの好きなこと』の記入			
第三回目	集団プログラム (セッション1)	<input type="checkbox"/> (ホームワーク) 『子どもの好きなこと』の提出			
第四回目	集団プログラム (セッション2)				
第五回目	集団プログラム (セッション3)				
第六回目	集団プログラム (セッション4)	<input type="checkbox"/> ホームワーク『プロフィール表』の記入	<input type="checkbox"/> 参加記録のまとめ <input type="checkbox"/> ふりかえりシートの作成	<input type="checkbox"/> 振り回りの会 (第七回) の時間調整 <input type="checkbox"/> 振り回りの会の周知	<input type="checkbox"/> 『プロフィール表』の配布
第七回目	カンファレンス 振り回りの会	<input type="checkbox"/> ホームワーク『プロフィール表』の提出	<input type="checkbox"/> グループ活動状況の評価及び発達特性とかわり方の検討、今後支援方針の検討 <input type="checkbox"/> 担当者を中心になって個別振りの戻りを行う <input type="checkbox"/> アンケート用紙の配布	<input type="checkbox"/> 資料準備 <input type="checkbox"/> カンファレンスの運営 <input type="checkbox"/> アンケート用紙の用意	<input type="checkbox"/> 資料準備 <input type="checkbox"/> カンファレンスの運営 <input type="checkbox"/> アンケート用紙の用意
実施後カンファレンス		<input type="checkbox"/> アンケートの記入・提出	<input type="checkbox"/> アンケート記載内容の確認 <input type="checkbox"/> 記録の整理	<input type="checkbox"/> アンケートの回収とまとめ <input type="checkbox"/> カンファレンスの日程調整 <input type="checkbox"/> カンファレンスの運営 <input type="checkbox"/> 事業のまとめ <input type="checkbox"/> 支出管理	<input type="checkbox"/> アンケートの回収とまとめ <input type="checkbox"/> カンファレンスの日程調整 <input type="checkbox"/> カンファレンスの運営 <input type="checkbox"/> 事業のまとめ <input type="checkbox"/> 支出管理

子どもプログラム

※『活動』はあくまでも具体例である。『観察ポイント』は、ふりかえりシートやアセスメントシートにつながるように書いてある。『留意点』についてはスタッフの反省会で気づいた点をまとめたものである。

グループの活動の流れ

時間/課題	内容	構造	備考
プログラム1 構造化設定・親子同室			
10:00~10:40	プログラム1 構造化設定・親子同室		
10:00~10:10 自由遊び	遊び道具を1つ提供し、自由に遊ぶ	フリースペースで親子一緒に参加 	メインTh: アシスタントTh: スタッフ:
10:10 ごあいさつ	親子一緒に集まって、挨拶と呼名をする スタッフの顔写真とスタッフをマッチングする		
10:10~10:25 スキンシップ遊び	親子一緒に集まって、音楽でスキンシップ遊びをする		
10:25~10:40 選択活動	順番を待って選択活動をする	親見学 	
模倣 認知・社会性課題 自己表現・手先課題 お茶を飲む	マラカスをを用いて、見本と同じ動きをする スタッフが教材を提示し、認知・社会性の課題を行なう 手先を用いた課題や制作を行う 順番にお茶をそそいで、お茶を飲む	親見学 	机を出して、机上での活動に
10:40~10:45	移動<親子同伴・エレベーターにて移動>		
プログラム2 半構造化設定			
10:45~11:00 ダンス ゴーストストップ サーキット	音楽や遊具を用いて、全身運動活動を行なう。	プレイルーム1 	メインTh: アシスタントTh: スタッフ:
シール貼り	シール帳にシールを貼る。		
プログラム3 自由設定			
11:00~11:20 自由あそび	自由に遊ぶ	プレイルーム1	メインTh: アシスタントTh: スタッフ:

プログラム1

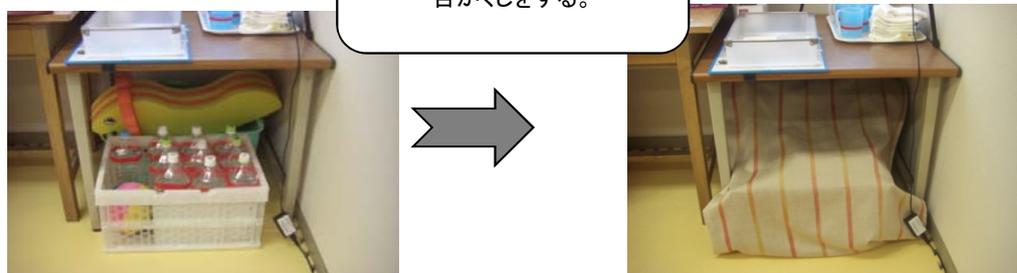
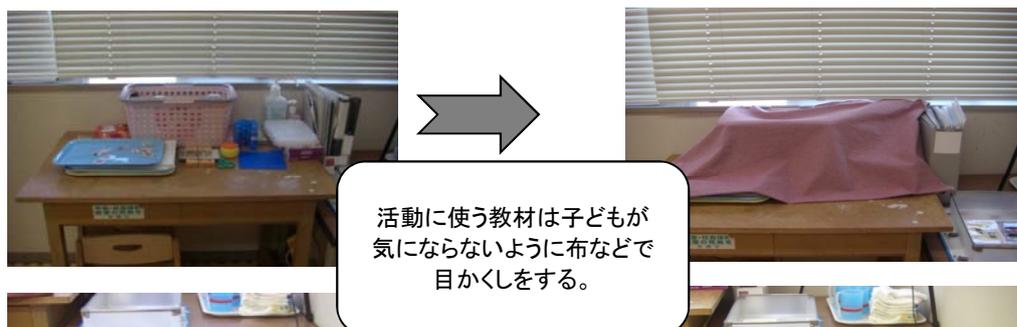
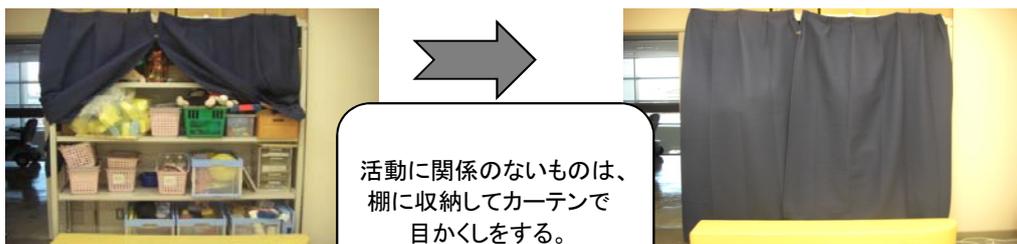
グループの部屋準備について

安全に活動が行えるように環境整備を行なう。

体験セッションでは、視覚支援は活用せず口頭で指示を行ない、セッション1以降に視覚支援を活用する。

活動に関係のないものや、子どもが気になってしまうものは、見えない工夫を行う。

例:



1 朝の準備

活動のねらい

入室時の様子の観察や、手順をどのようにすると理解しやすいのかを観察する。
靴やスモックの身辺自立の力や、感覚の過敏・こだわりについて観察する。

環境設定

朝の準備の視覚支援



下駄箱の足形とマーク



うわばき入れとスモックの棚



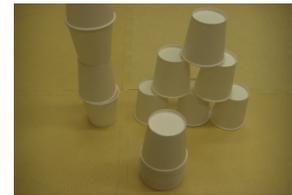
活動内容と観察ポイント

順番	活動	内容	観察ポイント
1	入室時の様子	グループの部屋に入室する	緊張・興奮・入室渋りなど入室の際の反応を確認する
2	手順を確認する	声かけ・視覚支援での手順理解	声かけによって理解・視覚支援によって理解
3	靴の履きかえ	靴を脱いでうわばきに履きかえる	靴が履きかえられる・こだわり・過敏性マークの理解
4	うわばき袋をしまう	うわばき袋をかごに入れる	下駄箱⇒棚への移動・かごにしまうことができるか マークの理解
5	スモックを着る	スモックを着る	自分で着る・要介助・こだわり・過敏性

留意点

- ・視覚支援がある場合にもない場合にも、口頭での指示は最小限にする。
- ・視覚支援がある場合は視覚支援に注目しやすいように指示をだす(指をさすなど)。
- ・児がどのように行動するか確認した後に介助が必要であれば行う(先に介助しすぎない)。
- ・情緒不安定のために、手順をこなすことが難しい場合等は、児に合わせた対応をする。
- ・保護者の関わり方について観察する。

2 開始前の自由あそび

活動のねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・児・保護者ともに、緊張緩和の時間(活動が始まるまでの心の準備の時間)。 ・児の様子・体調を確認する。 		
環境設定		
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の準備の後～あいさつまでの時間に自由あそびを行う。 ・毎回、遊びの道具を一つ提供する。 		
活動内容と観察ポイント		
活動例	内容例	活動の紹介
袋ふうせん	ゴミ袋や買い物袋に空気を入れて膨らませた袋風船で遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に遊べる素材のおもちゃを用意する ・子どもが個々のペースで遊べる工夫をする ・開始前なのでスムーズに片づけられるよう、集中しすぎず、気持ちが高ぶりすぎないおもちゃを用意する ・一つの玩具のみを用意しておくことで玩具の取り合いなどを防ぎ、自分の遊びの取り組みのペースを保つ ・他にもブロックなど、活動バリエーションは様々である
箱つみき	空き箱を重ねたり、並べたりして遊ぶ 箱の中身を確認して楽しむ 	
新聞紙あそび	新聞紙を広げてとばしたり、丸めたり、破ったりして遊ぶ 	
スポンジつみき	スポンジを重ねたり並べたりして遊ぶ 	
紙コップ	紙コップを積んだり重ねたりして遊ぶ 	
留意点		
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは自由あそびの時間に、保護者から子どもの様子や体調について会話をする(情報収集とスタッフと保護者の関係作り)。 ・開始前なので子どもを楽しませすぎて興奮させないように配慮する。 		

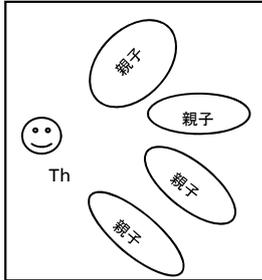
3 あいさつ

活動のねらい

- ・開始時の様子(緊張・場面の切りかえの様子)を観察する。
- ・呼名への反応・歌・音への反応・顔の認識について観察する。

環境設定

保護者と一緒に集合し、あいさつをする



スタッフの顔写真選択



活動内容と観察ポイント

順番	活動	内容	観察ポイント
1	あいさつ	あいさつの歌であいさつ	歌活動を楽しめるか・音の過敏性があるか・参加の仕方
2	呼名	児の名前を呼ぶ	呼名への反応
3	スタッフの顔写真	スタッフの顔写真をマッチング→スタッフに写真の名札をわたす	顔写真のマッチングができるか 写真とスタッフのマッチングができるか

留意点

- ・写真と人物のマッチングが苦手な児には、性別が違う、眼鏡をかけているといったわかりやすいカードを選択させる等配慮する。

4 スキンシップあそび

活動のねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて保護者と一緒にスキンシップ遊びを体験する。 ・感覚の過敏性や、スキンシップ遊びへの反応(楽しめる・興奮・固まる・回避・拒否等)を観察する。 ・音楽への反応(聴覚の過敏性)を観察する。 		
環境設定		
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつと同じ位置で保護者と一緒に活動を行う。 ・音楽に合わせてスキンシップ遊びを行う。 		
活動内容と観察ポイント		
※スキンシップ遊びは様々なものがあるため、いろいろと工夫が可能。		
活動例	内容	観察ポイント
ガタガタバス	母の膝の上に座って揺らしてもらう (早く→ゆっくり→早く)	揺れ感覚に対する反応
エスカレーターの歌	児は寝転がり、保護者が足の先から 頭まで、タッチをしていく	部分的な刺激への反応
指をピッピッピ	保護者が子の手と足の指一本ずつに 圧刺激をいれながら触れていく	指先への刺激の反応
ちいさくなあれ	保護者が子を抱っこして、体全体を ギュッと抱きしめて小さくなり解放する	体全体への刺激への反応
ほっぺをキュー	ほっぺ・頭・おなかなど体の一部を母 がタッチしてキューっと圧刺激	部分的な刺激への反応
こげこげポート	親子が向き合って手をつなぎ、交互 に引っ張り合う	共有して楽しめるか
肩をトントン	母と子が交互に肩をたたく 母とペア→皆で輪になって行う	力の調節 役割の交代
活動の留意点		
<ul style="list-style-type: none"> ・メインThとアシスタントThでペアになり見本を示す。 ・スキンシップの際の触れかたの違いや工夫の見本を示す。 ・曲のテンポを変えたときの児の反応をみる。 ・経験の差がでないようにポピュラーな曲の使用を減らしている。 		

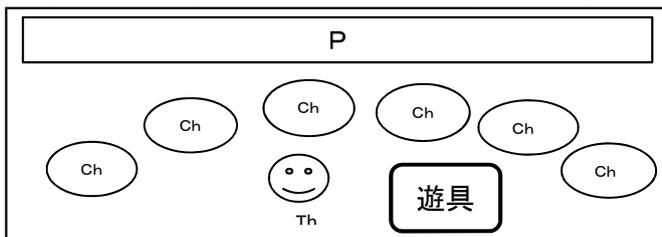
5 選択課題

活動のねらい

- ・見える形でわかりやすく提示された選択肢中から選択するという、相手の提案に応じることによって相手に合わせるという社会性を育てることの具体例を示す。
- ・選択の様子を観察する。
- ・順番を待つ活動や、遊具の扱い方について観察する。
- ・保護者と離れて着席しての活動へ構造の変化した時の様子を観察する。

環境設定

- ・母と離れて椅子に座る。
- ・選ぶ順番は数字カードと顔写真で視覚提示する。



活動内容と観察ポイント

活動例	内容例	観察ポイント
ビリボ	くるくるまわす 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具選択をすることができるか ・順番を待つことができるか ・着席して待つことができるか
ゆらゆらライオン (揺れ遊具)	ライオンの遊具にのって揺らす 	
ワゴン	ワゴンにのって前後に動かす 	
ボーリング	ボールでピンを倒す 	

留意点

- ・遊具を安全に動かせるようにサポートする。
- ・待つ間も苦痛にならないよう、活動の様子を見られる配置にする。

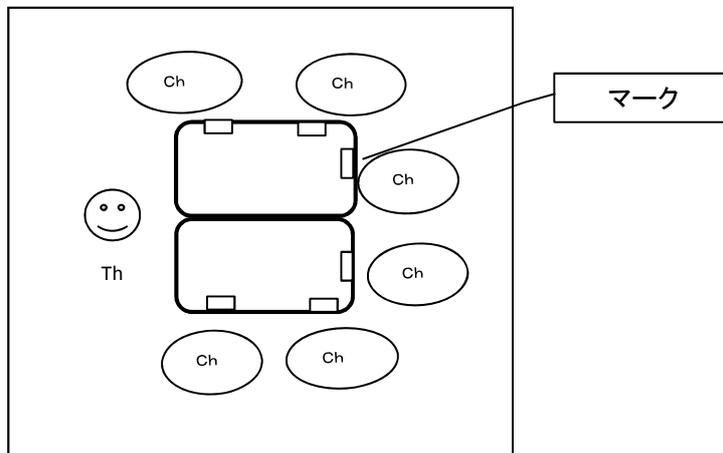
6 模倣

活動のねらい

- ・ボディイメージ、モデルへの注意の向け方、他者に合わせる力を観察する。
- ・音への反応(聴覚の過敏性)を観察する。

環境設定

- ・机と椅子を用意して、児は自分のマークのある席へ移動して座る。



- ・マラカスを使用して、スタッフのモデルもしくはカードをみて動作の模倣をする。

活動内容と観察ポイント

順番	活動例	内容	観察ポイント
体験セ	接着模倣＋伸展模倣 (絵カードなし)	あたま・ほっぺ・おなか・ばんざい	Thの見本に注目して模倣できるか
セ1	接着模倣＋伸展模倣 (絵カードあり)	あたま・ほっぺ・おなか・かた・手を上に伸ばす・手を前に伸ばす	カードへの注目 接着・伸展の模倣
セ2	伸展模倣＋交差模倣 (絵カードあり)	手を上に伸ばす・手を前に伸ばす・手をよこに伸ばす・手を交差させる	伸展・交差の模倣
セ3	伸展＋非対称(絵カードあり)＋動きあり動作	伸展・手を上と横・手をあたまと肩・前に手を出す(動きあり動作)	伸展・非対称の模倣 動きのある動作の模倣
セ4	象徴模倣(絵カードあり)	うさぎ・ひこうき・とけい など	象徴模倣・イメージする力

留意点

- ・体験セッションではカードを使用せずに模倣を行う。
- ・第3回セッションから、カードを使用して見本を示す。
- ・終点を明確にするために最後は「グルグル」で終わる。

7 認知・社会性課題

活動のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎認知を確認する。 ・活動に対する応答性や遂行の仕方を観察する。 ・保護者の観察の仕方を観察する。 			
環境設定（机と椅子の位置は6から変化なし）			
<ul style="list-style-type: none"> ・机上で課題を行う。Thが課題を提示し活動を行う。 ・トレーにあらかじめ教材を一人分用意しておき、トレーごと配る。 ・トレーごと配ることによって、準備の時間が短縮できるとともに、自分の分の課題が明確になり、選びやすくなる。 			
活動内容と観察ポイント			
順番	活動例	内容	観察ポイント
体験セ	絵本再生 	絵本「がたんごとん(安西水丸・作/福音館書店)」の読み聞かせの後に、絵本のストーリーを再現する。 ①絵本を読み聞かせする。 ②絵本のストーリーを再生する教材を提示する。 ③児にカードを配り、お話しを再現していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせに集中するか ・絵本の内容を理解し、再現できるか
セ1	属性分類 	<動物・くだもの・のりもの>のカードを、属性で分類してはりつける。 ①児にカードを配る。 ②分類の家(代表のカードをはる)を提示し、「何の仲間かな?」と聞き、それぞれの仲間であることを伝える(Ex:「どうぶつのお友達の家だね」)。 ③「お友達のおうちにはってみよう」と言って児にカードを分類の家にはってもらう。	<ul style="list-style-type: none"> ・属性を理解して分類することができるか 2歳では同じものをマッチングすることができ、3歳では別のもので同じ属性のものと理解できるなど、年齢や児に応じた配慮が必要となる
セ2	関係把握 	うさぎの一日のお話に沿って、うさぎの状況と関係のあるカードを選択する。 ①こどもにカードを配る。 ②「ウサギさんの一日」の話に沿って、状況の絵を提示していく。「何があるとよいか?」と問いかける。 ③こどもが関係するカードをわたしてくれたら、「どうぞ」「ありがとう」と声かけしながら渡す。 (P19参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・状況や物との関係性を理解することができるか ・やりとり場面(「どうぞ」「ありがとう」)を共有することができるか

順番	活動	内容	観察ポイント
セ3	位置把握 	3×3のマスに、見本と同じように事物のカードをはっていく。 ① 児に絵カードと家のカードをわたす。 ② Thが絵カードをはったところと同じ位置に絵カードをはる。1対1対応でマッチングを行う。 ③ 出来上がったら絵カードを全て取る。 ④ 3×3のマス全てに絵カードがはってある見本を提示し、児は同じ位置に絵カードをはっていく。	・位置の理解ができるか ・見本と見くらべることができるか
セ4	状況理解 	絵本「こんなときってなんていう？(文・たかてらかよ、絵・さこもみ/ひかりのくに株式会社)」を用いて状況理解の確認を行う。 ① 絵本を見せながら、左のページをThが読み進める。 ② 「こんなときってなんていう？」とThがこどもたちに尋ね、反応をみる。	・状況にあった言葉を使うことができるか ・最初分からなくても、他児の回答を聞いて理解できるか ・絵本活動に対する反応の確認
留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味をひくことのできる活動を工夫する。 ・苦手感を助長しないように配慮し、必要に応じて適切なサポートを行う。 ・保護者が適切な距離で見守れるようサポートをする(保護者が介入しすぎないように)。 ・課題達成について保護者の不安が喚起されやすいので、保護者へのフォローも適切に行う。 			

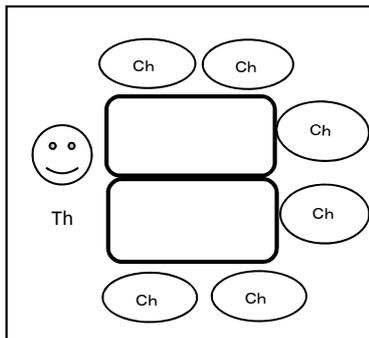
8 自己表現・手先課題

活動のねらい

- ・活動を通して達成感を味わう。
- ・微細運動や道具操作の仕方を観察する。
- ・生活スキルを観察する。
- ・「できた」の報告や、完成したものの共有について観察する。

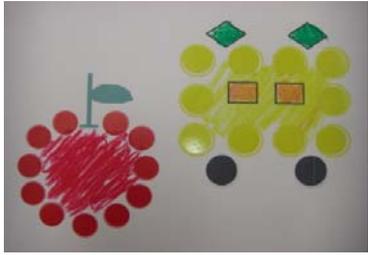
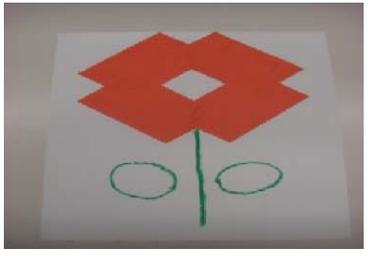
環境設定

- ・机上で課題を行う。Thが課題を提示し活動を行う。



活動内容と観察ポイント

順番	活動例	内容	観察ポイント
体験	ひも通し	ビーズをひもに通す 	手先の操作性 目と手の協応性
セ1	ビーズ運び	キャラクターの口の中に、レンゲ・ピンセットでビーズを運ぶ  未満児・年少 れんげを使用  年中・年長 ピンセットを使用	目と手の協応 道具の操作性

順番	活動例	内容	観察ポイント
セ2	ちぎり絵	<p>折り紙をちぎって、台紙に貼っていく</p> <p>夏(1クール目):すいか</p>  <p>秋(2クール目):くだもの</p>  <p>冬(3クール目):雪だるま</p> 	<p>手先の操作性(ちぎり方・貼り方) のり:過敏性(触覚・嗅覚) ・のりの触覚を回避するためにお手ふきを用意しておく ・のりが触れない児にはスティックのりを用意しておく</p>
セ3	シールはり→ぬりえ	<p>指定の色のところにシールを貼り、その中に色をぬる</p> 	<p>図と地の弁別(シールをはる場所の理解) クレヨンの操作(ぬりえ)</p>
第6回	お花作り	<p>①折り紙を見本を見て折る ②角に描いた線をハサミで一回切りする(年少以下の児はスタッフが切り線を書く) ③完成した花を紙に貼る ④クレヨンで枝と葉をかく(直線・円を描く)</p> 	<p>折り紙のおり方(角を合わせられるか) はさみの操作 描画(直線描き・円を描く)</p>

留意点

- ・利き手が安定しているか確認する。
- ・「できた」の報告や、完成したものの共有について観察する。
- ・家庭でのサポートの仕方を、保護者に随時説明する。
- ・課題が難しい場合は、適宜スタッフがサポートしていく。

9 お茶を注ぐー飲む

活動のねらい

- ・水分補給をする。
- ・生活の中での発達支援の工夫を示す。
- ・他児の行動に注目することや、他児にお茶のコップを配れるかなど、共有の仕方を観察する。

環境設定

- ・順番にThの横に来て、座ってお茶をコップに注ぐ。
- ・コップには、赤いテープで線を引いておく。
- ・注いだお茶を他児に配る。
- ・順番は数字カードと顔写真で視覚提示する。



活動内容と観察ポイント

順番	活動	観察ポイント
1	お手ふきで手をふく	お茶をいれる操作 順番を待つこと 他児の行動に注目する 「ストップ」の声かけをする 他児にお茶のコップを配る
2	順番に名前を呼び、お茶をコップの線のところまで入れる	
3	待っている子どもたちは赤い線のところで「ストップ」をいう	
4	入れたお茶を他児にわたす	
5	全員にお茶が配られたら「いただきます」をする	
6	全員が飲み終わったところで「ごちそうさま」をする	

活動の留意点

- ・渡したくない、特定の児に渡したいなどのトラブルも起きる。その場合は、配る活動を次回から省略するなどの配慮も必要。

10 部屋の移動前の予告

活動のねらい	
活動のきりかえの様子を観察する。	
活動内容と観察ポイント	
活動内容	観察ポイント
1 プログラム2のプレイルームの写真カードを提示する。 2 プレイルームに行くまでの手順を確認する。 ①うわばき袋に上履きを入れて、靴に履きかえる ②保護者と一緒にエレベーターで2階のプレイルームへ移動する	流れの見通しを理解理解できながらも座っていただけるか
活動の留意点	
・移動時にけがや、迷子のないように安全に注意を払う。 ・次の移動が分かると走って飛び出す場合もあるため、移動前に気持ちを落ち着かせる配慮を行う。	

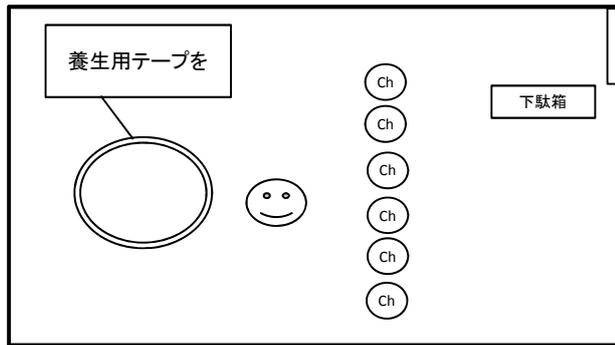
プログラム2

1 ダンス

活動のねらい

- ・モデルに合わせて体を動かせるか。
- ・楽しんで音楽運動活動に参加できるか。

環境設定



アンパンマンたいそう

作詞: やなせたかし、魚住 努/作曲: 馬飼野康二/編曲: 馬飼野康二 振付: 豊田典子

振付 ※振付されているものを、児にわかりやすいように変更して使用

- ①前奏(8拍) ……体制を整えてダンスの準備
- ②「アンパンマン」+8拍 ……左手を腰に右腕をグーにして上に伸ばし、ポーズ
- ③16拍 ……その場で足踏み
- ④4拍×4 ……両手一緒に挙げ下げく下げる(2拍)+挙げる(2拍)を4セット>
- ⑤8拍×4 ……両手を横に曲げ伸ばししつつ左右へ移動
く右側へ移動(8拍)+左側へ移動(8拍)を2セット>
- ⑥4拍 ……ジャンプ
- ⑦16拍 ……手をグーにして上でパンチく左右交互に2拍づつを4セット>
- ⑧16拍 ……手をグーにして前でパンチく左右交互に2拍づつを4セット>
- ⑨8拍 ……右を向き、手をグルグルする
- ⑩8拍 ……左を向き、手をグルグルする
- ⑪8拍 ……正面を向き、大の字ポーズ

どうぶつたいそう1・2・3

作詞・作曲: 阿部直美/編曲: 越部信義 振付: 阿部直美

留意点

- ・ダンスが苦手に参加しない児には無理強いしない。
- ・児があまり楽しんでいないときには早々に曲を終わらせるなどの配慮をする。
- ・一目で動きがわかるような動きのダンスにする。

2 音楽、運動活動

活動のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・他者とともに体を動かすことの楽しさを味わう。 ・音楽や他者の動きに合わせて力を観察する。 ・粗大運動を確認する。 			
環境設定			
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて動く時、動く位置がわかりやすいようテープで円形にラインをを引いておく。 			
活動内容と観察ポイント			
活動例	内容	観察ポイント	
リトミック的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて歩く、走る、止まる、歩くなどの運動を行う ・音楽やモデルに合わせてながらジャンプ、ケンケン、四つんばい、ずりばいなど様々な動きを表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・耳からの指示により、動いたり、止まったりといった指示に応じられるか ・音楽や他者に合わせて動きのテンポを調節できるか ・モデルに合わせてながら、さまざまな動きが行えるかどうか ・興奮・緊張の様子を観察する 	
音楽運動活動 道具を利用した	第1回 バルーン	<ul style="list-style-type: none"> ・バルーンの上に乗ったり、下に入ったりして楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具(視覚の手がかり)が入った際の反応をみる ・共に活動する他児をどのように意識するか
	第2回 鈴ロープ	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴のついた輪になっているロープを皆で持って、ロープを緩急をつけながら左右に回す ・ロープの中に入ってロープ電車を行う 	
	第3回 フラフープ	<ul style="list-style-type: none"> ・フラフープを床に置いてジャンプ、トンネルにしてくぐる、つなげて電車にするなど 	
留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・音の使用については、聴覚過敏の子がいる場合、音量等配慮が必要である。 ・動きが伴う活動は、興奮や緊張が喚起されやすいため、見せる時間を保証し、無理強いを避けるなどの配慮が必要である。 ・苦手さを助長しないように、現在の発達年齢の動きから乖離しすぎた動きを要求をしないよう配慮する。 			

3 サーキット(セッション4のみ)

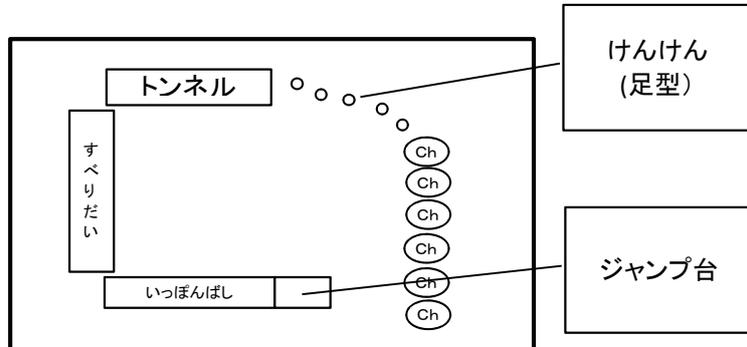
活動のねらい

- ・遊具を用いた粗大運動を確認する。
- ・順番が守れるか観察する。

環境設定

(例)

- ・遊具を組合わせてサーキットを作る。
- ・順番で全員2周回ってもらう。



活動内容と観察ポイント

活動例	内容	観察ポイント
トンネル	トンネルをくぐる	・遊具に合わせて体の動きを調節して姿勢を変えることができるか
滑り台	滑り台に上る。台の上で姿勢転換し、すべる	・どのように滑るか ・姿勢の転換はどうか ・視線の方向(到着点を見ているか)
はしご	はしごにのぼる	・はしごのかたむきにあわせて姿勢を調整することができるか ・視線の方向、力の入り方
ケンケン	足型、フラフープなどで目印をつけてケンケンをする	・どのように体のバランスをとるか ・体の重心の移動の仕方かどうか
ジャンプ台	両足ジャンプする	・どのようにジャンプするか(足の曲げ方やどこに力が入っているかなど)
一本橋	一本橋の上を渡る	・どのように体のバランスをとるか(足のおき方、支えなど)

留意点

- ・危険性がある遊具や子どもが怖がりそうな場面にはスタッフが付き添い、いつでも介助できるよう配慮する。

4 シール貼り

活動のねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・好きなシールを選べるかを観察する(同じシールだけを貼る、交互に貼る、小さいものばかり貼るなど、それぞれの児の特徴が見えやすい)。 ・1回につき1枚貼るという理解に応じられるかを確認する。 ・運動活動に参加できなかった児がこの活動から参加することも多いため、流れを意識しながら参加できなかったのか、他の刺激に振られてしまい参加できなかったかを確認する。 		
環境設定		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>椅子に</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>シール貼り台紙</p> </div> </div>		
順番	内容	観察ポイント
1	Thの呼名の後、カードを渡す	・呼名への反応
2	シールを選び、カードの適当な場所に貼る	・シールを選べるか ・適当な場所に貼れるか
3	カードをThに渡し、他児が終わるのを待つ	・他児が終わるのを待てるか
活動の留意点		
・シールの取り合いが起きないように、同じシールを複数枚用意しておく。		

5 自由遊び

活動のねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1やプログラム2での設定された場面から、自由な構造へと変化した際の児の反応の変化を観察する。 ・自由場面での他者との関わり方を観察する。 ・どんなふう遊ぶかを観察する。 ・母子分離の様子を観察する。 		
環境設定		
・児の遊びに応じて遊具など出していく。		
観察ポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・どのように他児やスタッフと関わっているかをみる ・興奮や多動、衝動性などの確認 ・どのように遊びを展開しているかをみる ・どのように遊びの切りかえをするか 		
留意点		
<ul style="list-style-type: none"> ・他児とのトラブルや遊具による事故を防ぐためにスタッフは常に注意を払う。 ・児の関わり方の評価のため、スタッフから働きかけるのではなく、児からの働きかけにスタッフが応じていく。 		

関係把握・うさぎちゃんの日

<(カードを配ってから)みなさん、こんにちは。今日(uさぎちゃん)の一日を紹介するよ。みんなにもお手伝いしてもらおうと思うから、よろしくね。>

<さあ、朝です。うさぎちゃん起きました。(洗面所のカードを示しながら)顔を洗いに来ました。顔を拭こうと思うんだけど、何か足りないなあ。だれか持っているかな?>(タオルのカードを兎が出したら)「どうぞ」(と言ってもらい、)<ありがとうございます。これでお顔をふけます。>(と受け取る)

<朝ごはんの時間になりました。(ちやわんのカードを示しながら)ごはんを食べようと思うんだけど、食べるのに何か足りないなあ。だれか持っているかな?>(はし・フォーク・スプーンのカードを兎が出したら)「どうぞ」<ありがとうございます。これでご飯が食べられます。食べる時にはなんて言うかな>「いただきます」(と言ってもらい)<さあ、ごはんの時間が終わりました。食べ終わったらなんて言うかな。>「ごちそうさまでした。」

<ごはんを食べたら歯を磨きます。(歯磨き粉のカードを示しながら)何か足りないなあ。だれか持っているかな?>(歯ブラシのカードを兎が出したら)「どうぞ」<ありがとうございます。これで歯が磨けます。みんなはどうやって歯を磨くかな(動作を促す)>

<歯を磨いたら、お母さんにお手伝いを頼まれたよ。(草のカードを示しながら)お庭にお水をあげてちょうだいって。どうしよう、何でお水をあげればいいかな。だれか持っているかな?>(じょうろのカードを兎が出したら)「どうぞ」ありがとうございます。これでお水をあげられます。><もう一つお手伝いを頼まれたよ。おばあちゃんにお手紙を出してきてちょうだいって。(手紙のカードを示しながら)どこに出しに行けばいいかな。だれか知ってるかな?>(ポストのカードを兎が出したら)「どうぞ」<ありがとうございます。これでお手紙を出せます。>

<よし、お手伝い終わったぞ。家の中で遊ぼう。(机のカードを示しながら)座って遊ぼうと思うんだけど、何か足りないなあ。だれか持っているかな?>(椅子のカードを兎が出したら)「どうぞ」<ありがとうございます。これで座って遊べます。><今度はお絵かきしようっと。(えんぴつのカードを示しながら)何を描こうかな、あ、まちがっちゃった。どうしよう>(消しゴムのカードを兎が出したら)「どうぞ」<ありがとうございます。これで消せます。>

<さあ、今度はお外で遊ぼう。ピクニックに行くよ。(リュックのカードを示しながら)何か足りないなあ。だれか持っているかな?>(すいとうのカードを兎が出したら)「どうぞ」<ありがとうございます。これでどどがかわいても大丈夫です。>

<さあ、いっぱい遊んだからお家に帰ろう。あ、急に雨が降ってきちゃった。(長靴のカードを示しながら)どうしよう、何がいるかな。だれか持っているかな?>(傘のカードを兎が出したら)「どうぞ」<ありがとうございます。これで雨が降っても大丈夫です。>

<今日はみんなのおかげで、楽しく一日が過ごせました。どうもありがとうございます。バイバイ>

グループ内で使用している楽曲

おはよう みなさん

作詞・作曲 A.Nakajima

お は よ う み な さ ん お は よ う つぎはだれ

みんなのかお

作詞・作曲 A.Nakajima

みん な の か お っ て ど ん な か お い ろ ん な か お が あ る け れ ど
。 。 せん せい ど ん な か お 。 。 せん せい こ ん な か お

ゆびピッピッ

作詞・作曲 A.Nakajima

お や ゆ び さ ん を ピ ッ ピ ッ ピ ッ ひ と さ し ゆ び さ ん ピ ッ ピ ッ ピ ッ
な か ゆ び さ ん を ピ ッ ピ ッ ピ ッ く す り ゆ び さ ん を ピ ッ ピ ッ ピ ッ
こ ゆ び さ ん を ピ ッ ピ ッ ピ ッ て の ひ ら ひ ろ げ て ト ン ト ン ト ン
あ し の う ら を

かたたたき

作詞・作曲 A.Nakajima

ト ン ト ン ト ン ト ン ト ン ト ン ト ン ト ン ト ン ト ン ト ン
ト ン ト ン ト ン ト ン ト ン ト ン

まねっこ

作詞・作曲 A.Nakajima

The image shows a musical score for the song 'まねっこ' (Manekko). It consists of two staves of music in G major (one sharp) and 4/4 time. The first staff has a melody starting with a quarter rest, followed by quarter notes G, A, B, A, G, and eighth notes G, A, B, A, G, F, E, D. The second staff has a melody starting with a quarter rest, followed by quarter notes G, A, B, A, G, and eighth notes G, A, B, A, G, F, E, D. The lyrics are written below the notes.

まねっこ
つぎは まねっこしよう まねっこしよう まねっこしよう
う ららら あたま あたま あたま あたま あたま
う ららら か た か た か た か た か た

【使用している楽曲一覧】

- ・「おはよう みなさん」 作詞・作曲 A.Nakajima
- ・「みんなのかお」 作詞・作曲 A.Nakajima
- ・「がたがたバス」 詩訳 志摩 桂/外国曲
出典：株式会社ポプラ社「うたって楽しい手遊び指あそび120」
編・著者：レッツ・キッズ・ソンググループ
- ・「エスカレーターの歌」 不明
- ・「ゆびピッピッ」 作詞・作曲 A.Nakajima
- ・「ちいさくなあれ」
参考曲「たかくなあれひくくなあれ」より「ちいさくなあれ おおきくなあれ」
作詞 村山寿子 作曲 一宮道子 補詩 齊藤秀元
出典：子どもが喜ぶ感覚運動あそび40選
著者：筑波大学付属桐が丘養護学校知覚 - 運動学習研究会
- ・「にこにこほっぺ」 作詞 佐倉智子 作曲 おざわたつゆき
出典：明治図書出版「0歳からのうたあそび いらないないかくれんぼ」
- ・「こげこげポート」 詩訳 志摩 桂/イギリスのあそび歌
出典：株式会社ポプラ社「うたって楽しい手遊び指あそび120」
編・著者：レッツ・キッズ・ソンググループ
- ・「かたたたき」 作詞・作曲 A.Nakajima
- ・「まねっこ」 作詞・作曲 A.Nakajima

親グループプログラム

親グループプログラム

時 間 午前 11 時～11 時 30 分

場 所 プレイルーム 2

	内 容	ねらい	主な内容
第一回	集団プログラム (体験セッション)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループのねらいや参加のしかたを理解できる ・同じ悩みをもつ保護者がいることを知ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・自己紹介
第二回	親セミナー ～保護者のための 学習会～	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見すること、子どもの特性を理解することの意義について理解する ・グループ活動のねらいや具体的な内容が理解できる ・参加にあたってのところがまえを理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー ・質疑応答
第三回	集団プログラム (セッション1) & 親グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の子どもの行動を発達の特徴の視点から振り返ることができる ・子どもの強みに気づくとともに親がして欲しいこととは違うことに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想 ・ワーク 「子どもの好きなこと」
第四回	集団プログラム (セッション2) & 親グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達の特徴をこどもの視点で気付くことができる ・子どもの特徴に応じたかかわりかたのヒントを理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想 ・ワーク 「子どもの好きなこと、その対応のコツ」
第五回	集団プログラム (セッション3) & 親グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達の特徴をこどもの視点で気付くことができる ・子どもの特徴に応じたかかわりかたのヒントを理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想 ・ワーク 「子どもの苦手なことと対応のコツ」
第六回	集団プログラム (セッション4) & 親グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの振り返りながら、子どもの特性についてグループのなかで気軽に話すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びの見学 ・まとめ
第七回	振り返りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの様子をふまえ、子どもの特徴とかかわりかたのコツを保護者と共有する ・保護者が今後の子育て方法の見通しをもつことができる ・プロフィール表を用いて家族の子ども理解の確認 ・福祉制度利用や、リハ利用等、今後の具体的な支援体制について話し合う 	個別に振り返りを行う

気づきグループ 第一回親グループ

ねらい

- ・グループのねらいや参加のしかたを理解できる
- ・同じ悩みをもつ保護者がいることを知ることができる

時間 11:00～11:30

場所 プレイルーム2

時間	内容
11:00～11:10	オリエンテーション スタッフ自己紹介 センターのグループ概要 今回の日程 参加のルール
11:10～11:25	自己紹介 －参加するまでの経緯－ 参加しての感想
11:25～11:30	まとめ 次回の案内

実施マニュアル

時間	内容	目的・コメント例	留意点
10分	オリエンテーション	<p>スタッフとの信頼づくりと安心な場づくり</p> <p>「みなさん、こんにちわ はじめてのグループ参加お疲れ様でした。」 「親御さんの話し合いに一緒に入らせていただきますスタッフの〇〇です。よろしく お願いします。」</p> <p>*参加しているスタッフの説明や講師の紹介も合わせて行う</p> <p>グループの概要把握と参加のところがまえ</p> <p>・当センターのグループ説明</p> <p>「このグループは、親御さん方がお子さんの発達の特徴と、かかわりかたのコツを知っていただくためのグループです。」「お子さんの得意なこと苦手なこと、子育てのコツを一緒に考えていきたいと思えます。」</p> <p>・日程の説明</p> <p>「グループは全7回です。本日は体験参加、次回2回目は親御さんを対象にしたセミナーです。3回目～6回目は親子で一緒に体験するグループが続きます。7回目はグループのまとめとして、個別にお子さんの特徴やかかわり方のコツを話し合います。2回目と6回目は親御さんのみの参加ですが、託児も可能ですので、お子さんが一緒に参加していただいても大丈夫です。スタッフにお知らせください。</p> <p>・参加のルール</p> <p>「参加していただくにあたって、お願いがあります。ここでは、お互い色々なことを話す機会があります。ここで他の親御さんから聞いたお話はここだけということをお願いしたいと思います。」</p> <p>何か質問はありますか？</p>	<p>配布資料あり</p> <p>*お互いにプライバシーを守ることを確認</p>

時間	内容	目的・コメント例	留意点
15分	自己紹介	<p>お互いを知り会話しやすい場をつくる</p> <p>「それでは、自己紹介をお願いしたいと思います。」</p> <p>お話していただくのは</p> <p>① ご自分のお名前</p> <p>② お子さんのお名前</p> <p>③ 参加することになった経緯</p> <p>④ 期待していること</p> <p>です。では〇〇さんからお願いします。」</p> <p>*時間によって参加しての感想を話題にする …初回で話題になること…</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの様子（戸惑い 緊張 マイペース 拒否）への保護者の気づき</p> <p><input type="checkbox"/> 対応として待つということ</p>	<p>*③で話が長くなりすぎないよう適当なところで介入して④を促す。</p> <p>*子どもが活動に参加できなかった、拒否していた等の場合は、保護者が不安になるもの。それをとりあげ、保護者の不安の軽減を図る。</p>
5分	まとめ 次回の案内	<p>参加にあたってのお願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叱らない ・手伝わない：励ましはOK ・気になったことはいつでもスタッフに <p>今回の振り返りと課題の共有</p> <p>*自己紹介の中で出されたこどもの特徴に触れながら・・・</p> <p>「お子さんの得意なこと苦手なこと、どうかかわっていったらいいだろうということと一緒に考えていきたいと思います。」</p> <p>「以上で本日のグループを終了します。来週は親御さん向けのセミナーです。10時に3階の会場にお集まりください。」「それでは一緒にお子さんたちのお部屋に移動したいと思います。」</p>	

気づきグループ 第二回親グループ

ねらい

- ・子どもの発達の特徴をこどもの視点で見てみることに気付くことができる
- ・グループ活動のねらいや具体的な内容が理解できる
- ・参加にあたってのところがまえを理解できる

時間 11:00～11:20

場所 相談室 3-3

時間	内容
10:00～10:05	オリエンテーション 講師紹介 日程の説明
10:05～11:00	講義 親セミナー
11:00～11:20	質疑応答 まとめ ワークの説明「子どもの好きなこと苦手なこと」と資料配付 次回の案内

時間	内容	目的・コメント例	留意点
10:00～	導入 日程の説明 講師紹介	参加のところがまえと安心な場づくり ・前回の感想、前回以後取り組んでみたことを伺う。 ・本日の予定 ・講師紹介	
11:10～	質疑 まとめ	会話しやすい場をつくる 質疑 質問や感想を話してもらおう。 今回の振り返りと課題の共有 「来週からは、お子さんの好きなこと、苦手なことを知って、お子さんに合った子育てのコツを一緒に考えていきたいと思えます。」「次回までに宿題があります。」 ・ホームワークの説明 「以上で本日のグループを終了します。来週はお子さんと一緒に参加していただきます。10時に3階の会場にお集まりください。」	

ころころ親セミナー



- ・前回の感想
- ・本日の予定
- ・講師紹介

お子さんの様子を見てると どんな気持ち? (^_^)

保護者に聞く。

お子さんのタイプは？

- ◇ドキドキさせられる:
みんなに迷惑かけないかしら…
元氣すぎるタイプ
- ◇心配させられる:
本当はやりたいんでしょ
おとなしすぎるタイプ
- ◇不安になる:
言いたいことばかり言って…
マイペースタイプ

他児と比較するのではなく、悩みはそれぞれ違うということを意識してもらおう

(例) それぞれのタイプ
うちと違っていいな! って、思うこともあるかも。ここに集まっているのは何かしらお子さんについて心配なことがあるご家族です。でも困っていることは、それぞれ違うんですね。

子どもたちの気持ちを 考えてみましょう

- ◇「大丈夫よ」: (・_・)だれか?
- ◇「やれよできる」: (・_・)できないから困っている…
- ◇「困ったら先生に聞けばいいじゃない」:
(・_・)どうやって聞けばいいの?
- ◇「がんばって」:
(・_・)がんばってもできないから困ってるのに…
- ◇「ちゃんとしてね」: (・_・)ちゃんとしてるよ

保護者に聞く

苦手さがあるということ

- みんなと同じようにできないことは、自信をなくしやすい（自分では、みんなと同じようにできない事は 気づけない）
- 一生懸命教える＝苦手な事ばかりさせられる（苦手さが目に見えてわかりやすいのが勉強）



★苦手なことはやりたくない＝もっと苦手になる

★目が悪いのに、がんばって見ろと言われても・・・

考えてみましょう

- トウガラシをおいしく食べられるようになる方法
- 黒板のひっかく音を好きになる方法
- (高所恐怖症のあなたが)バンジージャンプを平気で跳べるようになる方法
～背中を押ししましょうか？～

★いやな事をさせられるのはつらい(>_<)

苦手なことを 早く見つけてあげることの大切さ

- 特性を早期に理解することで、嫌な体験や不安を減らすことができる

★がまんの器を早くから限界にしないこと
= 予防が大切

対応(予防)

- 苦手なことをていねいに見つけ、理解してあげる
- 対処の方法を考えてあげること(専門家の利用)
- 嫌な体験を少なく<成功体験を増やす

苦手さのわけを知る



保護者に聞く

時間がかかっても自分からの一歩は大切です。ましてや苦手な一歩は時間がかかるもの。その一歩が出やすいようサポートすることが大事です。

(例) 保育園幼稚園の早い時期に苦手さをうえつけないことが大切です。苦手なことを丁寧にみつける。苦手なことは丁寧にゆっくり。嫌な体験を増やさない。学校って楽しい。勉強って楽しい。大人って頼りになる。友達といると楽しい。という気持ちを育てましょう。

(例) 苦手と一言で言ってもその理由は様々です。

**たとえば、
「じっとしていられない」なぜ？**

あつ車が通つた
トイレ流したかな～
おかあさんとこいくの？
このいすつらい
おはしはいやだよ～

対象者に合わせてスライドをピックアップして説明する。

(例) 目についたものにとびつく→観察力がすごい。

この椅子つらい～→体を支える筋力が弱くて、じっとしているほうがつらいということもあります。

**たとえば
「みんなの中に入れない」なぜ？**

場所が嫌
音がうるさい
誰の声を聞いていいかわからない
みんなの動きについていけない
何かすればいいのかわからない
見られるのが嫌

(例) いろんな理由があります。

はじめての場所ドキドキしませんか？

**たとえば
「おとなしすぎるいい子」なぜ？**

先生が言っていることがわからないから、みんなについて行く
みんなの前で話そうと思うと緊張しちゃう
どうやって話していいかわからない
動くのが苦手
先生にいつ聞きにいいかわからない

(例)

特性があるお子さんは、頭で考えるタイプ→前もって言ってあげればできることもある。

**たとえば
「でかけたくない」なぜ？**

いつもの服じゃなくちゃいや
新しい服はいや
ぼたんがついているのは嫌
今日どこへ行くかわからない
いつものテレビがみれない
いつものバスが嫌い

子育て一般論から卒業しよう

- **体験すれば何とかなる**
 - 体験派タイプ<頭脳派タイプ：体験しながら獲得することが苦手
 - **痛い目に合えばわかる**
 - 嫌な事はしたくない=やる気をなくす
 - 嫌なことを思い出して出来なくなってしまう
 - **厳しく叱らないとわからない!?**
 - 僕ってダメな子なの=自己評価の低下
 - 大人は信頼できない
- ★嫌な体験や失敗体験ばかりが積み重なると、やる気をなくす

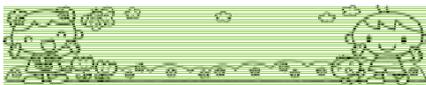
(注意)

これまでやってきた子育てをかえることのコツに触れる
少しずつルールをかえる
違う方法ゆっくり考える

発達に凸凹（得意な事と苦手な事）を抱える子ども達～

- 「できない」ということではなく情報処理の仕方が違うため、さまざまな事に対する身につけ方が違う
- 多くの人たちと同じような方法ではなく、その子に合った方法を見つけてあげる事が大切
- ★育て方にコツが必要なこともたち

ころころグルーブの活動



集団に入るとのこと・・・

嫌な感じがいっぱいある所!?

集団に入るといこと

- ◇部屋にいても何もしない
その場にいることからもう参加している
- ◇みんなは何をしているのかな
周囲に興味をもっている
- ◇同じ活動をしている
お父さんお母さんに頼らずできた

⇒集団ってたのしいね
⇒先生の指示を聞くと便利

(例) 集団の中でここちよく過ごす土台づくりをします。例え、集団の中で活動をしていなくてもみんな何しているのかなと思っている段階で相手を意識し、気持ちは活動に参加し始めています。そして、同じ活動をすれば自信になります。だから集団の中で参加しなくても。まずはその場は安心と思えるよう、みんなが何をしているのかを見る時間を保証してあげましょう。

ころころグループのポイント

- ◇グループ活動を参観しながらお子さんの物事への興味のもち方・活動への参加の仕方を知りましょう
- ◇スタッフとお子さんに合った対応を考えていきましょう
- ◇みなさんで意見交換をしながらこの先の見通しをもちましょう

ころころグループの活動構成

ふれあいあそび

イスに座って活動

体を使って活動

自由あそび

(例)
朝の準備も含めてどう自分で理解してやっているかを見てみましょう。
ふれあい→感覚の感じ方の違い 楽しい活動の中で体験
おもちゃ選択→折り合いをつける：社会性の一歩 指示に従って楽しいという体験
自由遊び→遊びのリードをしません。どんなふう遊びをはじめるか友達とどんなふう遊びか どんなふう立ち直るか

グループ参加のお願い (^^)

- ◇しからない
- ◇手伝わない！励ましはOK
- ◇気になったことはいつでも聞く

気になったときは持ち帰らずに聞いてください。
おうちでもどうぞ！

早期支援の大切さ

がまんの器を早くから限界にしないこと
⇒予防が大切



早くから考えることの大切さ

私たちにできること： お子さんの理解者を増やす

◇個性を理解してあげよう＝個性について判断
してくれる専門家

◇苦手なことにも取り組める工夫を

◇理解者とともに、学習や生活がしやすい環境
作り

◇対処方法を教えてあげられる環境作り

◇個性をわかってくれる人を増やす



ご家族が疲れてはいませんか

- ご両親ががんばりすぎてはいませんか？
 - 特性は、しつけや家庭環境のせいではありません
 - 育て方に工夫が必要なため、家族が疲れやすい
 - 周囲からの誤解を受けやすい
 - 同じ悩みを相談できる相手が少ないので、抱え込みやすい

★ご自分の時間を作っていますか？

お父さんお母さんがほっとする時間
をもつことも大事です。

お父さんお母さんが元気で子育てを
楽しめることが第一です。

お子さんを褒めてみましょう
(*^_^*)

気づきグループ 第三回親グループ

ねらい

- ・子どもの発達の特徴をこどもの視点で気付くことができる

時間 11:00～11:30

場所 プレイルーム 2

時間	内容
11:00～11:10	参加しての感想 子どもの様子(戸惑い 緊張 マイペース 拒否 前回との違い) への保護者の気づき
11:10～11:25	ワーク「子どもの好きなこと苦手なこと」 子どもの好きなこと 親の気持ち
11:25～11:30	まとめ 次回の案内

実施マニュアル

時間	内容	目的・コメント例	留意点
10分	参加しての感想	<p>子どもの様子（戸惑い 緊張 マイペース 拒否 前回との違い）への保護者の気づきを共有する。</p> <p>「みなさん、こんにちは 今日は、第三回目のグループです。」 「お子さんの、様子はいかがでしたか？」 *発言を促す。</p> <p>グループ参加に対して、子どもの戸惑い、緊張 拒否 などの行動があり、保護者がそのことを話題にした場合、あるいは保護者が不安に感じている場合はそのことを話題にし、保護者が安心して継続参加できるようにする。</p> <p>例) *子どもの行動の理由（不安 緊張 苦手さ等）の解説 *子どもへの対応として待つということの説明 *母子関係の説明</p>	
15分	ワーク 「子どもの好きなことと苦手なこと」	<p>子どもの発達の特徴についてこどもの視点から考える</p> <p>「それでは、前回お渡しした「子どもの好きなこと苦手なこと」の用紙を出してください。書けましたでしょうか？（*まだ書いてない親御さんがいた場合は、考えながら参加してもらえば大丈夫ですよと伝える）まず今日は子どもの好きなことをテーマに話し合っていきたいと思います。」 「お子さんの好きな事どんなことがありますか？では〇〇さんお願いします。」</p>	

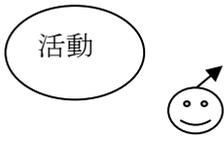
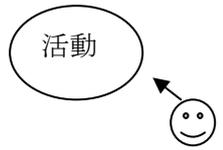
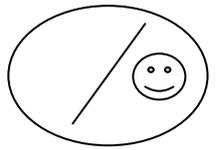
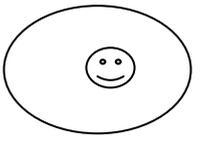
		<p>…順番に発言 ホワイトボードに書き出していく</p> <p>「お子さんの好きなこと、たくさん出てきました。共通する好きなこともありますね。」</p> <p>「さて、このお子さんにとって好きなこと親御さんはどんな気持ちになりますか？」</p> <p>項目ごとに発言した保護者に聞いてく</p> <p>→嫌な気持ちになる内容については、どう対応しているのかを保護者に話していただく</p>	
5分	<p>まとめ 次回の案内</p>	<p>今回の振り返りと課題の共有</p> <p>「今回はお子さんの好きなことをみなさんで一緒に考えてみました。共通することもあること、お子さんはすごく好きなんだけど親御さんは困ってしまうこともありますね。来週は、この好きすぎちゃうことへの対応方法を学習していきたいと思います。」</p> <p>「以上で本日のグループを終了します。」</p> <p>「それでは一緒にお子さんたちのお部屋に移動したいと思います。」</p>	

ミニ講義 (子育てのヒント)

子どもが活動に参加しない場合の親支援

子どもがグループ活動に参加できない！親御さんは不安になりがち

発達特性のある子どもたちは、集団の活動は不得意な子が多いです。ちょっとした人とのやりとりや、様々な刺激が、子どもの負担になっている場合があります。またいつもと違う場所や知らない人の中では、緊張や不安を強く感じ混乱していることもあります。 集団参加のしかたはいろいろです。その場にいる事からもう集団に参加しています。無理に集団で何かをさせようとするとう集団は嫌な場面になってしまいます。お子さんのペースや心地よい参加の仕方を尊重してあげましょう。

			
① みんなと同じ場所で別のことをしている	② みんなの活動をみている	③ 部分的に参加する	④ みんなと同じように全部参加する

子どもが親にくっついて活動に参加しない…こんなときも親御さんはあせりません

お母さんと子ども (母子関係の話)

お母さんと子どもってからだは離れているけど心は切り離せないもの。

鳥の巣立ちと同じように考えてみましょう。今は、これくらいは離れても大丈夫かなって練習している段階です。集団で嫌な体験があると急に母のところに戻ってくるもの。母のところでも安全を確認しているのです。がんばらなくちゃと強く感じてしまうほど母とのつながり強くなるもの。だから離れないことをあせらなくて大丈夫。

育児のヒントは、子どもがちょっとチャレンジしているときは、あまり手をかけすぎず、待ってあげること。戻ってきたらすごいね！って、言ってあげましょう。大人はどうしても手を出したくなるもの。でも、待つって大事です。子どもがチャレンジしてみたくなるように手を出してあげましょう。

気づきグループ 第四回目親グループ

ねらい

- ・子どもの発達の特徴をこどもの視点で気付くことができる
- ・子どもの特徴に応じたかかわりかたのヒントを理解することができる

時間 11:00～11:30

場所 プレイルーム2

時間	内容
11:00～11:10	参加しての感想 子どもの様子(戸惑い 緊張 マイペース 拒否 前回との違い) への保護者の気づき
11:10～11:25	ワーク「子どもの好きなこと苦手なこと」 好きすぎちゃうことへの対応のヒント
11:25～11:30	まとめ 次回の案内

実施マニュアル

時間	内容	目的・コメント例	留意点
10分	参加しての感想	<p>子どもの様子（戸惑い 緊張 マイペース 拒否 前回との違い）への保護者の気づきを共有する。</p> <p>「みなさん、こんにちわ 今日は、第四回目のグループです。」 「お子さんの、様子はいかがでしたか？」 *発言を促す。 「お子さんの様子で気になったことはありますか？」</p>	<p>行動の意味や理由について発言を促してから説明する。</p>
15分	<p>ワーク 「子どもの好きなことと苦手なこと」</p>	<p>子どもの発達の特徴についてこどもの視点から考える</p> <p>「それでは、前は、みなさんでお子さんの好きなことを出し合いました。お子さんの好きすぎちゃうことは、必ずしも親御さんにとってハッピーなことではありませんでしたね」 *用紙を配布し振り返る 「今日はお子さんの好きすぎちゃうことについて、どう対応していったらいいか考えていきたいと思います。」</p> <p>→ジャンルごとに、どう対応しているのかを保護者に話していただく 支援のヒントを説明する *資料参照（P46） 質問を確認する</p>	<p>今後の相談関係に繋げていくために、ちょっとしたことでも話題にして良い雰囲気をつくる。 ※「うちの子両利きなんで便利だなんて思うんですけど・・・」</p>

5分	まとめ 次回の案内	<p>今回の振り返りと課題の共有</p> <p>「今回はお子さんの好きすぎちゃうことへの対応方法を一緒に考えてみました。来週は、お子さんの苦手なことについて一緒に考えていきたいと思います。」</p> <p>「以上で本日のグループを終了します。」</p> <p>「それでは一緒にお子さんたちのお部屋に移動したいと思います。」</p>	
----	--------------	--	--

親ミーティング資料 (例)

親ミーティング資料 (例)		対処方法		
		ご家庭での実践例	対処方法のヒント	
<p>お互いの親の 気持ち (うれしい!!)</p>  <p>よく覚えていてすごい!</p> <p>元気に外で遊んでくれるなんて、こどもらしくてうれしい!</p> <p>いいな うらやましい 自分でつくるなんてうれしい!</p> <p>落ち着いてすわっているなんていいな!</p>	<p>こどもの好きなこと</p> <p>好きなもの・こと</p> <ul style="list-style-type: none"> 電車 車 本屋 ピンク色のもの テレビを見ること 散歩 食べること 好きな場所 おばあちゃんち かわいいものが売っている場所 保育園 自宅のソファ 布団の中 自宅 公園 <p>好きな遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒーローごっこ 制作 読み聞かせ テレビゲーム 	<p>親の気持ち (困る!!)</p> <p>ずっとで大変! 終わらない! 切り替えができない!</p> <p>ほどほどだといいんだけどね...</p> <p>外に行きたがるが服がパンツまでどろどろになる!</p> <p>終わりがなくて大変! 相手をするのに疲れちゃう!</p> 	<p>ご家庭での実践例</p> <p>はじめにお約束「ここまでね」 一日の流れをあらかじめ言っておく 時計を使う タイマーの活用 あと一つね</p> <p>ヒーローものは見せない 見て良い時間、日などをあらかじめ決めておく。</p>	<p>見通しをもたせる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間 (時計) で 予告 する 終わりを伝える 急ブレーキに気を付けて 場所 人 を決める <p>◎デジタルはできるだけ後に、図書館行ってみる、本で探すなど 当面はアナログで!</p>

気づきグループ 第五回親グループ

ねらい

- ・子どもの発達の特徴をこどもの視点で気付くことができる
- ・子どもの特徴に応じたかかわりかたのヒントを理解することができる

時間 11:00～11:30

場所 プレイルーム2

時間	内容
11:00～11:10	参加しての感想 子どもの様子(戸惑い 緊張 マイペース 拒否 前回との違い) への保護者の気づき
11:10～11:25	ワーク「子どもの好きなこと苦手なこと」 苦手なことへの対応のヒント
11:25～11:30	まとめ 次回の案内

実施マニュアル

時間	内容	目的・コメント例	留意点
5分	参加しての感想	<p>子どもの様子（戸惑い 緊張 マイペース 拒否 前回との違い）への保護者の気づきを共有する。</p> <p>「みなさん、こんにちは 今日は、第五回目のグループです。」 「お子さんの、様子はいかがでしたか？」 *話したそうな保護者にのみ発言を促す。</p> <p>グループ参加に対して、子どもの戸惑い、緊張 拒否 などの行動があり、保護者がそのことを話題にした場合、あるいは保護者が不安に感じている場合はそのことを話題にし、保護者が安心して継続参加できるようにする。</p>	
20分	ワーク 「子どもの好きなこと と苦手なこと」	<p>子どもの発達の特徴についてこどもの視点から考える</p> <p>「それでは、「子どもの好きなこと苦手なこと」の用紙を出してください。（*まだ書いてない親御さんがいた場合は、考えながら参加してもらえば大丈夫ですよと伝える） まず今日は子どもの苦手なことをテーマに話し合っていきたいと思います。」 「お子さんの苦手なことどんなことがありますか？では〇〇さんお願いします。」</p> <p>…順番に発言 ホワイトボードにおおまかにジャンルわけしたカードを用意、発言を聞きながら、貼っていく。同じことがある方は申し出てもらおう方式にする。 「お子さんの苦手なこと、たくさんありますね。共通することもありますね。」</p>	

		<p>「どんなふうに対応していますか？」 →ジャンルごとに、どう対応しているのか を保護者に話していただく 支援のヒントを説明する *資料参照 (P50, 51) 質問を確認する</p>	
5分	<p>まとめ 次回の案内</p>	<p>今回の振り返りと課題の共有</p> <p>「今回はお子さんの苦手なことをみなさん と一緒に考えてみました。来週は、親子で 一緒に参加していただく最後の会になりま す。親御さんと離れたあと、子どもたちが どんなふうにご経過しているかをそっと見て いただく時間も予定しています。そして、 みなさんの感想も含めまとめの話し合いを していきたいと思います。」</p> <p>「以上で本日のグループを終了します。」</p> <p>「それでは一緒にお子さんたちのお部屋に 移動したいと思います。」</p>	

ミニ講義（子育てのヒント）

～感覚の問題について～

普段の生活の中には、自動車の騒音、空調の音、日の光、服の感触、部屋のおいなど様々な刺激がありますが、ある程度のものは当たり前と思って気にしないで生活することができます。ところが、発達に特徴のある子どもたちは、感覚が極端に過敏であったり鈍感であったりします。これは、慣れや訓練では解決できない生理的な問題です。お子さんによっては、バイクの音が嫌、粘土のおいや感触が嫌、髪に水がかかるのが嫌だったりします。感覚の問題は、自分でするとクリアできることもあります。また、不安や嫌な気持ちが強くなりますますます辛くなります。物理的な対応で楽になることは、どんどんしてあげましょう。

できるけどやらない・・・背景に感覚の問題があるかもしれません。

～苦手なことへの対処方法のポイント～

あせらないこと

苦手なことは、時間は短く

9割やってあげて1割自分でやれば合格！いいところ取りをさせてあげる！

～思うようにならない！ときのポイント～

100%達成しようと思わないこと　まあいいかが大事

気分の問題のときは「しょうがない」で待ってあげる

技術力の問題については、今お子さんにどんな支援が必要かスタッフが一緒に考えます。

気づきグループ 第六回親グループ

ねらい

- ・子どもの発達の特徴をこどもの視点で気付くことができる
- ・子どもの特徴に応じたかかわりかたのヒントを理解することができる

時間 11:00～11:30

場所 プレイルーム2

時間	内容
11:00～11:10	プレイルーム見学
11:10～11:20	参加しての感想
11:20～11:30	ミニ講義 「集団ってね 成長ってね」 まとめ 次回の案内

実施マニュアル

時間	内容	目的・コメント例	留意点
10分	見学	マジックミラーから子どもたちの様子を見学する	
10分	グループに参加しての感想	<p>子どもの発達の特徴とかかわり方について気づいたことを共有する</p> <p>「それでは、グループに参加していただいていたかがでしたか？」</p> <p>…順番に発言</p>	
10分	まとめ	まとめのミニ講義	
	次回のお知らせ	<p>振り返りの会の日程の案内</p> <p>プロフィール表の説明</p>	

～最後に伝えたいこと～

子育て全般にいえることですが、“焦らず、じっくり、見通しをもって”見守っていくことが大切です。ここに集まっていたいただいたお子さんたちは急ブレーキ、急発進が苦手なのでなおさら大切です。そのためにはご両親が元気でいられることが大切です。子育てには休みがないので、夫婦の時間も大切にしてください。そして皆で育てていくことが大切です。ですから、我々をどんどん利用してください。

ミニ講義（子育てのヒント）

～集団に入るとのこと～

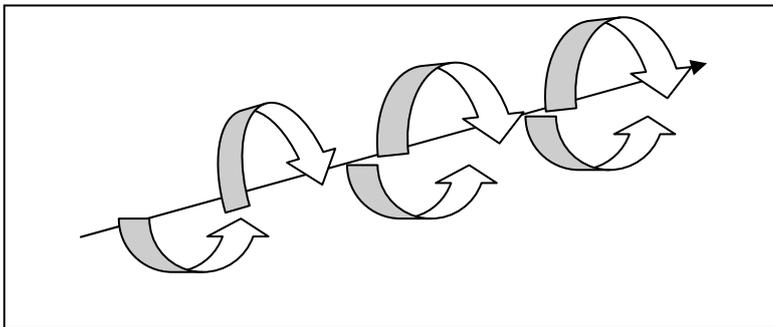
大きい集団の活動はなかなかお子さんのペースを待ってもらえないもの。

まず、1対1や小集団で、子どもができる！ことをまず尊重することが大事です。集団が苦手なお子さんにとっては、1対1や小集団が休憩にもなることもあります。そこで休憩して自信を高めて→大きい集団へ両方をうまく利用することが大事です。

大きい集団では、苦手なことはとりあえず置いておきましょう
まず小集団でいい関係を築く体験をすることが大事です。

～子どもの成長～

成長は一直線ではなくらせん階段だと考えてみてください。



昨日と今日の違いはなかなかわかりにくいもの
でも長い目でみると…

母は顕微鏡型の視点になりがち

大きい視点で見てみる大切です。

学期ごと 一年ごと…

引用文献一覧

1. 佐々木正美監修，木村常雄著：「発達障害のある子があなたにわかってほしいホントの気持ち」，すばる舎，2012。
2. 松井紀和著：「音楽療法家のための音楽療法の手引き」，牧野出版，1980。

こどもの苦手なこと・苦手な場所

苦手なことは嫌いにさせない。やらせようと思えとあせるもの。苦手なことはゆっくりにイメージしましょう。

	内容	対処方法のポイント
<p>苦手なこと</p>	<p>《手先・体の運動》 ◎絵や字を書くのが苦手 ◎運動（好きだけどうまくできない） 《人とのかわり》 ◎人にじゃまされること ◎怒られること ◎食を強要されること（偏食ではないが 咀嚼が苦手） 《コミュニケーション》 ◎思った事、感じた事を言葉にして伝えるのが苦手 ◎言葉にして伝えること ◎人の話を聞くこと 《感覚の問題》 ◎歯磨き ◎トイレ ◎お風呂 ◎食べ物 ◎うるさい音 ◎大音量の音楽 歌 《切り替え》 ◎片づけ ◎気持ちの切り替え 《見通し》 ◎はじめて食べる物 ◎知らない人 ◎急な変更 《その他》 ◎戦鬪系のテレビ・アニメ ◎おばけ</p>	<p>言葉で伝えるのは難しいもの それは大人も同じ。キライ！などママたちをドキドキさせる子どもの言葉は子どもの本心ではありません。そう言いたくなった気持ちはわかってあげてほしいけど、言葉そのものには反応しない、受け流すのがポイント。</p> <p>感覚の問題 嫌なものは嫌 どうやって対処するかを考える苦手なことは自分でコントロールできないもの。楽しいが多いと大丈夫だったりします。</p>

見通しの問題については、急発進、急ブレーキに注意。

こどもの苦手な場所

	内容	対処方法のポイント
<p>苦手な場所</p>	<p>暗い場所 病院 美容院 人混み スーパー・買い物 トイシ 音の大きい場所 過去のマイナスの記憶が残る場所 新しい場所</p>	<p>朝夕の忙しい生活の時間帯はイライラしがち。 9割やってあげちゃうでもOK しあげは自分 最後は「できた！」</p>

参考資料一覧

	No	名称	使用方法
記録用紙	No-1	グループふりかえりシート	振り返りの会の前にスタッフで実施しているカンファレンスで、このシートを用いて、子どもの評価及び今後の支援方針を検討する。
	No-2	グループ記録用紙	記録用紙
	No-3	個別フィードバック用紙	最終日の個別相談での面接記録用紙
親が記入する用紙	No-4	グループ参加時アンケート	事前に保護者に配布、初日に持参
	No-5	こどもの好きなこと苦手なこと	親セミナー修了時に配布し、次回持参
	No-6	プロフィール表	最終日に配布し、2週間後の個別相談の際に持参
	No-7	保護者アンケート	振り返りの会の際に配布する

総合評価（該当項目に☑）	
発達特性:	<input type="checkbox"/> 過敏性() <input type="checkbox"/> 鈍感() <input type="checkbox"/> こだわり() <input type="checkbox"/> 多動性() <input type="checkbox"/> 衝動性() <input type="checkbox"/> 興奮() <input type="checkbox"/> 癇癢() <input type="checkbox"/> 切り替え() <input type="checkbox"/> 緊張() <input type="checkbox"/> その他()
認知発達:	<input type="checkbox"/> IQ()
運動発達:	<input type="checkbox"/> 粗大運動 <input type="checkbox"/> 微細運動
ソーシャルスキル:	<input type="checkbox"/> 他者との関係() <input type="checkbox"/> ADL()
備考:	
今後の方針	
<input type="checkbox"/> 受診支援 <input type="checkbox"/> リハビリの紹介 <input type="checkbox"/> デイサービスの紹介 <input type="checkbox"/> 継続グループ <input type="checkbox"/> 個別支援	
評価日時:	

グループ記録

No-2

児童氏名：

記録者：

第1回 体験セッション		日時：平成 年 月 日(金)	
	活動	内容	記録
前半	開始前(朝の支度～)		
	挨拶・呼名		
	スキンシップ遊び		
	選択		
	模倣		
	認知・社会性		
	手先・制作		
	お茶		
後半			
	自由遊び		
	帰りのあつまり		
	帰り		
親プログラム	＜テーマ＞	感情	
		交流	
		子どもとの関わり	
		気づき・その他	
行動観察	発達評価・気づき		
	対人行動		
	こだわり		
所見			

個別フィードバック記録

No-3

氏名：

来所者：

担当者：

平成 年 月 日

保護者の気づき 参加の感想	
フィードバック 記録 (説明した内容・ 保護者の反応・ 合意したこと等)	
その他	
所見	

グループ参加時アンケート

No-4

こどもの 名前	
保護者の 名前	
●子育てしている中でお困りのことはどんなことですか？	
●グループで話題にしてほしいこと、知りたいことがありましたらご記入ください。	
●参加にあたり、心配な点や気をつけてほしいことがありましたらご記入ください。	

ご不明な点は、お気軽にお問い合わせください。

山梨県立こころの発達総合支援センター

No-5

記入年月日： 年 月 日

こどもの名前 _____

こどもの好きなこと・苦手なこと

好きなこと

好きな物・こと

好きな場所

好きな遊び

苦手なこと

苦手な物・こと

苦手な場所

記入年月日： 年 月 日

プロフィール

_____は、こういう子です！



わかってほしいこと

_____の得意なこと・苦手なこと

おうちのかたから一言
～お父さんお母さんの願い～

グループへの参加お疲れ様でした。グループに参加された保護者の皆様にアンケートへの協力をお願いします。今後のグループ活動をよりよくするため、どうぞ遠慮なくご意見をいただければと思っています。

なお、お手数ですが〇月〇〇日までにご返送くださいますようお願いいたします。

記入者氏名 _____

1. 今回のグループに参加してお子さんのことで気づいたことがありましたか？
 (該当するところに〇をお願いします)

あった なかった どちらともいえない

あったと答えた方へ
 その具体的な内容をお書きください

[]

2. お子さんに合った対応を知ることができましたか？
 (該当するところに〇をお願いします)

はい いいえ どちらともいえない

はいと答えた方へ
 その具体的内容をお書きください。

[]

3. グループに参加して印象に残っていることはどんなことですか？

[]

4. グループへのご要望ご意見がありましたら自由にお書きください。

[]



ありがとうございました。ご協力に感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月発行

幼児集団療育『気づきグループ』支援者テキスト

【監修】 本田秀夫（山梨県立こころの発達総合支援センター所長）

【検討メンバー】

中嶋 彩（（福）子育て・発達の里 こころとそだちの相談室**ぽーれ**）

宮沢久江 齊藤由美子 赤松拓 有泉風 河西朱音 久保律子（山梨県立こころの発達総合支援センター発達支援スタッフ）

発行：山梨県立こころの発達総合支援センター

〒400-0005

山梨県甲府市北新 1-2-12 福祉プラザ内